BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

犬飼港跡

INUKAI MINATO ATO / INUKAI

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

持って、歩いて、ひもとこう。

周辺情報

ぶらり、散策。

丸一製菓 / まるいちの栗どら

昔ながらの製法でようかんを作りつづける老舗和菓子店。しっとりふわふわの「栗どら」のほか、さくら餅など季節のお菓子も人気です。

豊後大野市犬飼町犬飼 40
097-578-0110
営7:00～18:00 休不定休

仲町製菓 / 若鮎

客足と笑顔が絶えない、地域で人気の和菓子店。犬飼名物「若鮎」は繊細な皮とやわらかい白あんのあんばいが絶妙です。

豊後大野市犬飼町犬飼68-2
097-578-0128 P3台
営8:00～19:00 休日曜午後

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 https://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-1001（代表） FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809

INUKAI MINATO / INUKAI

ひと、もの、賑わいの記憶。

豊後大野ジオサイトファイル

犬飼港跡

大野川沿いに立ち並ぶ民家と、広くゆるやかな河岸が印象的な風景。犬飼港は、江戸時代の明暦二年（1656年）につくられた川の港です。この地を治めていた岡藩主中川久清公が、内陸部（現在の竹田市）にあるお城への交通の拠点とするため、もとあった小さな船着き場から港を移し、犬飼港を整備しました。お茶屋、お役所などが整備された町は、武士や商人であふれかえりたいへんな賑わいだったといわれています。

その後大正六年（1917年）に豊肥線鉄道ができ、川船交通は終わってしまいます。しかし、今も残る商店街には、江戸時代の町並みがうっすらと残されています。

① 犬飼港の石畳（船着き場跡）

荷物の上げ下ろしに使われたとされる船着き場は、石畳によって整備されていました。江戸時代、この地域には凝灰岩を加工する技術があり、この船着き場も複雑な岸壁にはめ込む形で石畳がつくられています。

② 殿様専用の港跡

大野川と柴北川の合流地点は、殿様（藩主）専用の港として利用されていました。殿様は御座船と呼ばれる特別仕立ての船を使っていたといわれています。

大野川層群犬飼層とソールマーク

ここにある岩は大野川層群犬飼層の砂岩部分で、壁面には波打ったような起伏があります。これはソールマーク（底痕）と呼ばれるものです。ソールマークとは、海底を水の流れで小石などが移動するときにできたくぼみに、砂や泥がかぶって固まったものです。

＊形がわかるように、写真の上から線でなぞっています

波乗り地蔵

この岩の壁面には、川船の交通安全を祈願して彫られた「波乗り地蔵」が残されています。「波乗り地蔵」は彫られた岩が固い砂岩であるため線彫りの手法でつくられていて、シンプルな表現ならではの独特な魅力をたたえています。

9000万年前の凸凹を乗り越えて。

犬飼港跡周辺には、後期白亜紀（約9000万年前）に海底で堆積した大野川層群犬飼層という凸凹した堆積岩（砂岩や泥岩）がみられます。このようにいたる所が凸凹した状態では川港として使いにくかったため、江戸時代における最大の出荷場所には、阿蘇火砕流の溶結凝灰岩を敷きつめて石畳にしました。江戸時代の記録を見ると、溶結凝灰岩は「石質は至って和か也」＊と称されるほど加工に適していたようです。そのほか街並みの整備全般に、この石が使用されていたことが記録されています。

＊天保二年（1831年）中条唯七郎九州道中日記より

犬飼港は犬飼湊・犬飼津と表記されることがありますが、このパンフレットでは常用漢字である港で統一しています。

③ お茶屋の下に残る階段と石垣

江戸時代には石段を上りつめた先に御蔵所があり、そのさらに上には殿様のお茶屋がありました。

お茶屋（犬飼港図）

江戸時代の犬飼町

江戸時代の犬飼町には、奉行所や商人の大きな店が建ち並んでいました。19世紀の中頃に、養蚕技術の伝授のため信州（今の長野県）から来た中条唯七郎が書いた「九州道中日記」には、「犬飼の町は、奇岩が立ち並び、とても珍しい地形だ。加工しやすい石をけずって道路に敷き詰め、石畳をつくっている。さすが岡藩の殿様がつくった町だ。」と驚いています。

犬飼港図（豊後大野市資料館蔵）